

仏様の心を

共鳴し合う

先日、ピアノの先生をしている姉から教えてもらったのですけど、『音又(おんき)』って道具を皆さんご存じですか？U字型の金属で出来た物なんです。鳴らすと基本的に「ラ」の音が出るのです。その「ラ」の音に合わせて、他の旋律を合わせるという道具なのですが、これがホントに凄いです！音には合う音と、合わない音があります。そこで実験なのですが、まず2種類の音又を用意します。そしてどちらか片方の音又を打ち鳴らしたとします。すると、もう一方の音又も自然に振動するのです。触れてもいないのに、自然と鳴り響くのです。不思議じゃありませんか？これは紛れもなく、同じ音程をもった音同士が、自然と共鳴し合った証拠なんです。しかもそうやって、音が共鳴しあうことによって、もう一つの新しい音が生まれてくるというのですから、本当に驚きです。

実は私達人間にも、この音又と同じ現象を心の中に備えているのです。例えば人間対人間、あるいは思想対思想の中にも、この「音」に代わる、何か自然と共鳴するモノがあつて、

いわゆる自分の中の波長が、相手の波長と共鳴するといった様な、「あの人はウマが合う」・「ウマが合わない」と言う様な、そんな「心と魂の音階」があるのではないかと思えます。

仏教ではこう説いています。私達人間の心の中には、なんと10層の心境の世界が住んでいるというのです。1番下から、「地獄界・餓鬼界・畜生界・

修羅界・人間界・天上界・声聞界・縁覚界・菩薩界・仏界」という10の世界、すなわち『十界』ですね。『心コロコロころころ心』と言われる様に、私達の心境は森羅万象変化し続けます。例えば車を運転している時です。

自分の心に余裕があれば、他の車を優先的に「どうぞお先に進んでください」とばかりにニコニコして、先を譲ってあげることもありましょう。受けた方は「有難うございます・御陰様で」という風に、お互いに感謝の気持ちも湧くというものです。もし仮にその相手が挨拶もしないで、ビュンビュン飛ばして行ったならば、「事故に遭わなければいいのにねえ」といった様に、本当にどこまでもお人好しに、相手の先の事まで心配してしまう始末です。しかし、ひとたびこれが自分の心に余裕のない時であればどうでしょう。

「どけどけ邪魔だ邪魔だ」と、自分のことばかり、人様のことなんか全く眼中にない状態で、そういう状態の時には当然人に先を譲ってあげると言うこともしません。仮に途中から割り込まれでもしようものなら、「こいつ何考えてんだ！危ねえじゃねえかあ！急に人様の前に割り込んできやがって、殺されてえのか！」トホホ情けない。全く同じ人間の口から出てきた言葉とは、にわかには信じがたいですね。でもこれが、仏様の世界「仏界」から地獄の世界「地獄界」まで全ての心境を備えている、私達人間の現実なのですね。

私達が日常生活の中で、コロコロ変るその地獄の様な心境や、仏様の様な心境が、実は相手の心境にも多大な影響を与えている事を知らなければいけません。あの音又と同じ様に、仏様の心持ちで接することによって、相手の仏様の心呼び起こすことになるのです。また逆もしかりです。自分の心がワクワク楽しい気持ちでいる時は、相手の心も次第に楽しくなるのです。しかし「何だこの野郎！」と思っていれば、当然相手の心持ちも「何だこの野郎！」ということになるのです。相手は自分の写し鏡。幸せに、平和になりたいと思えば、それを相手に求めることをやめて、まずは自分の心持ちを幸せに、平和にすればいい事なのです。しかしその仏様のような心を保つのは

正直、容易ではありません。そこで仏様は次のように仰っておられます。「仏界の心を常に維持する為には、法華経、その肝心要である南無妙法蓮華経を、まずは口で唱えなさい。そして心に念じることによって、行動という目に見える形で、自然と表に顕われてきます。みなさん怠らず努力精進して頂きますことを、この法華経を通して心より念じております」と。

私達一人でも多くの人が、この仏心という音又を世の中に放っていきまます事を心より願い、お互いにさらなる精進を重ねて参りましょう。南無妙法蓮華経。

合掌

副住職 谷川寛敬

